アセスメントの極意：見えないニーズを掘り起こす技術

就労継続支援B型における「個別支援計画」の質を高める実務ガイド



チームで育てる「本人理解」の仕組み

NotebookLM

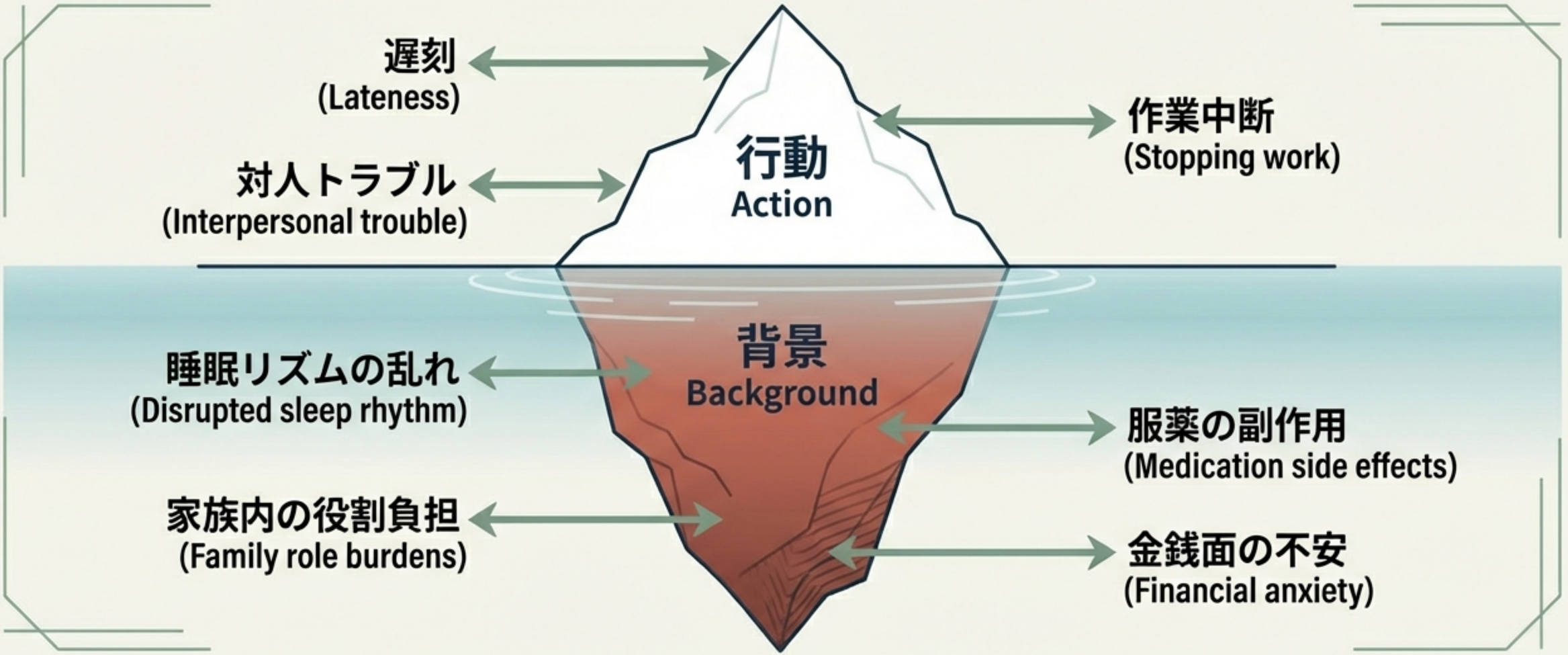
「本人は頑張っているのに、なぜか続かない」



初期の「働きたい」という言葉と、実際の行動（遅刻など）のギャップ。
このズレを「やる気の問題」で片付けると、支援は行き詰まります。

NotebookLM

表面的な行動の裏にある「真の要因」を見逃さない



対症療法ではなく、水面下の背景要因へのアプローチが必要です。

NotebookLM

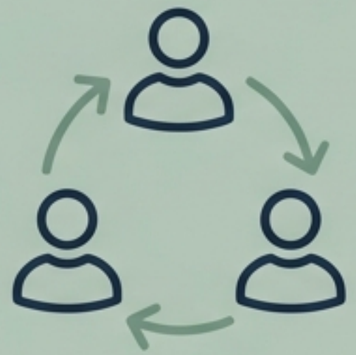
アセスメントは「書類作成」ではなく「仮説検証のプロセス」

従来のやり方 / Conventional



- 担当者個人の直感（Intuition）
- 初回のみの一発勝負（One-time）
- 静的：書類を埋める作業（Static）

新しいアプローチ / New Approach



- チームによる多角的視点（Team perspective）
- 短いサイクルの繰り返し（Short cycles）
- 動的：仮説を育てるプロセス（Dynamic）

良いアセスメントとは、「本人理解」をチームで育てていく仕組みです。

NotebookLM

チームで回す「3つのアプローチ」

担当者ひとりに抱え込ませず、組織として回すための設計図。



NotebookLM

Step 1: 担当者ひとりに抱え込ませない「3役」の設計

役割を分けることで、個人の主観によるバイアスを防ぎます。



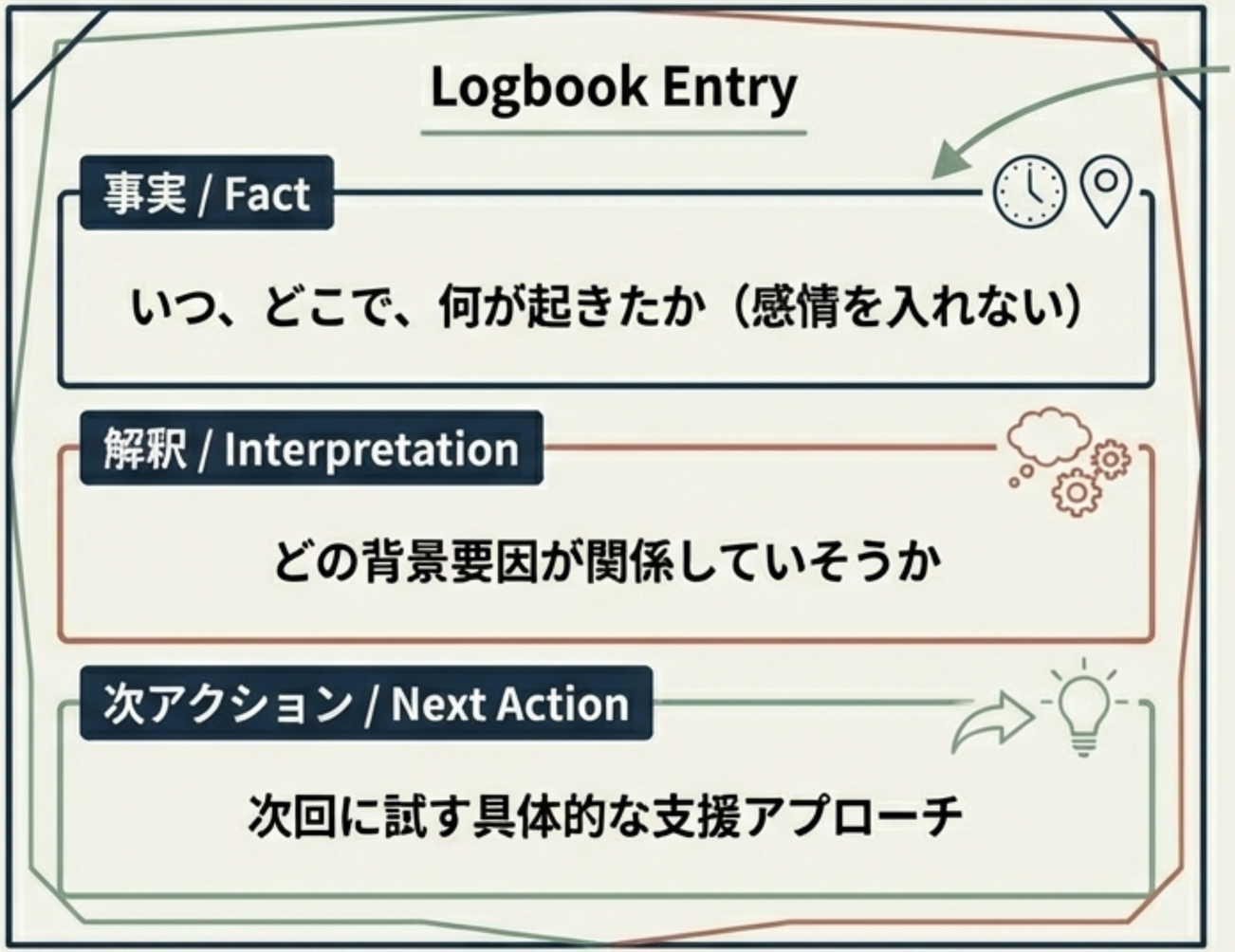
主担当（Main Lead）
面談設計と情報の統合

観察担当（Observer）
作業・休憩・対人場面の観察

検証担当（Verifier）
会議で仮説を客観的に点検

NotebookLM

Step 2: 次の支援につながる「3段記録法」



Pro Tip:
冒頭に『前回との差分』を書く
（例：先週より10分早い）

NotebookLM

Step 3: 支援の質を安定させる「4週間1サイクル」

Week 1
初回面談
＋ 基礎観察

Week 2
観察継続 ＋
仮説メモ作成



Week 3
検証会議
（方向性の決定）

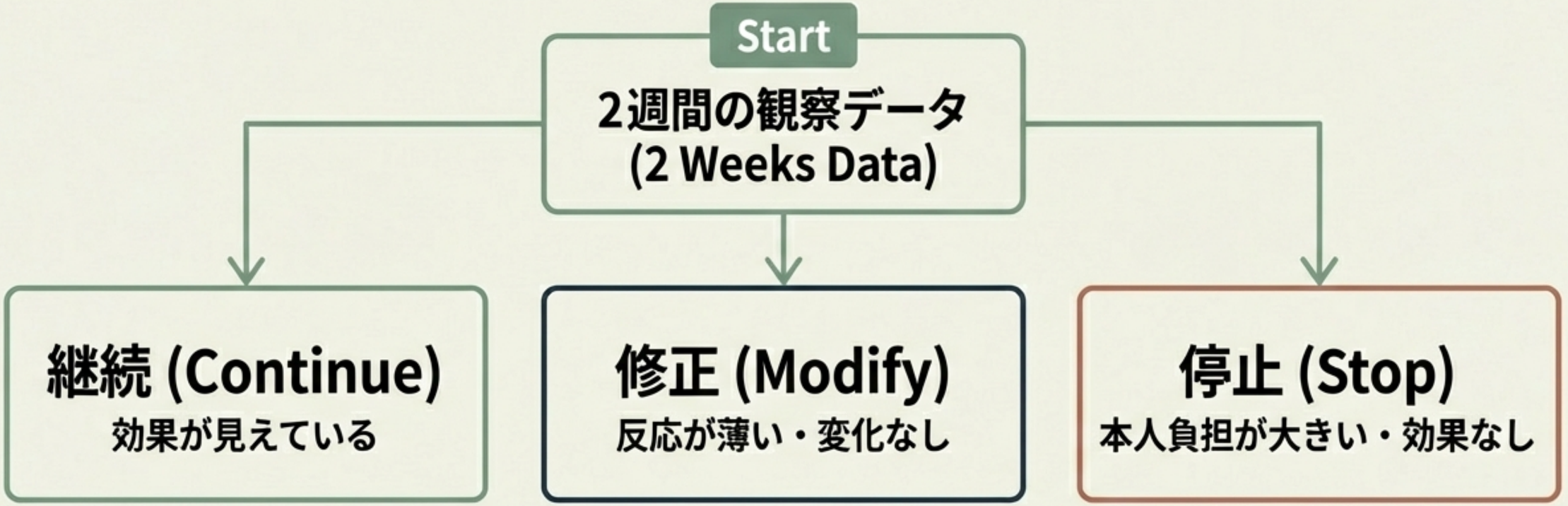
Week 4
修正支援の実施
＋ 本人合意

このリズムが定着すれば、職員が入れ替わっても支援の質は落ちません。

NotebookLM

会議は「感想戦」ではなく「意思決定の場」

15-Minute Decision Logic



Key Insight: 時間を決めて、必ずこの3つのどれにするかを決定します。

NotebookLM

実践事例：遅刻・作業不振からの回復

課題 (Problem)



- 週後半の遅刻
- 「もっと頑張ります」と言うが改善しない

アプローチ (Action)



観察：起床時間ではなく「就寝前の行動」を見る

環境：60分作業 → 25分×2セットへ変更

声かけ：励まし → 具体確認へ

成果 (Outcome)



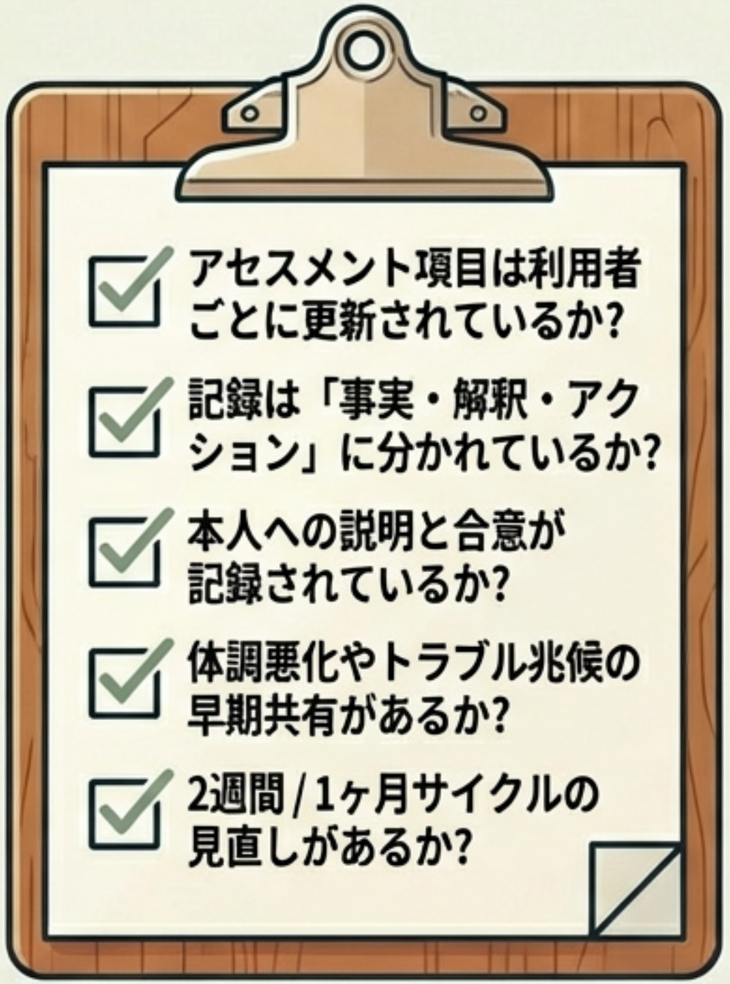
遅刻率：35% → **10%**

作業中断：1日4回 → **2回**

本人：「工夫すればできる」

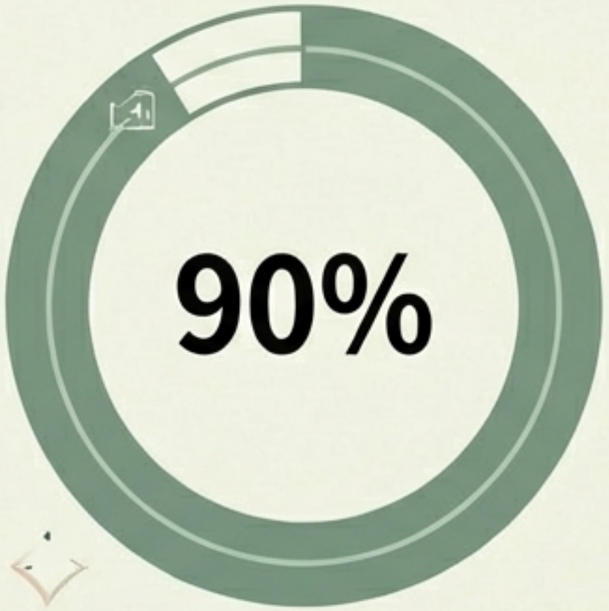
NotebookLM

アセスメント品質を守るチェックリスト

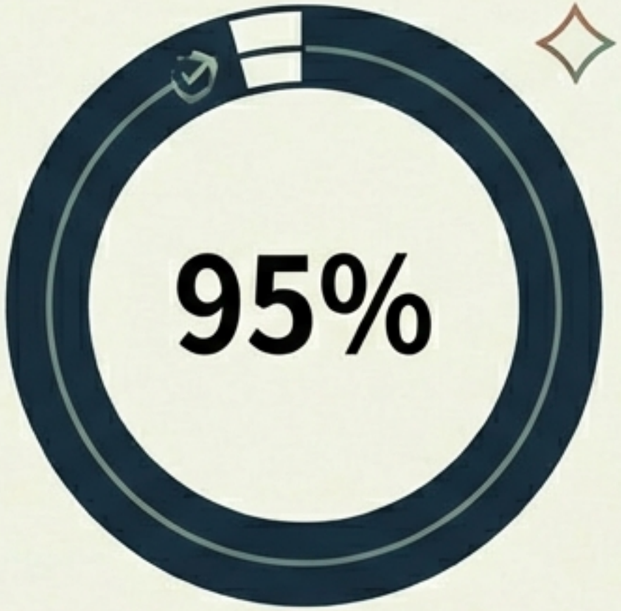


NotebookLM

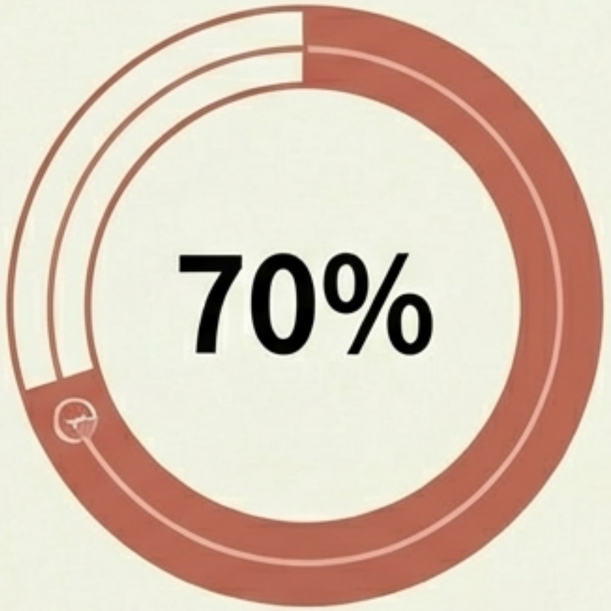
運用の「見える化」指標 (KPI)



初回アセスメント完了率
（2週間以内）



計画修正反映率
（次月計画への反映）



支援効果確認率
（目標の行動変化）

未達は失敗ではなく「仮説修正のサイン」です。

NotebookLM

よくある失敗と回避策

面談だけで判断する	→	休憩・作業の2場面を見る
記録の長文化	→	3行（事実・解釈・次）に絞る
会議が雑談になる	→	継続・修正・停止を決める

NotebookLM

よくある質問と根拠法令

Q 項目は多いほうがいい？

A いいえ。継続できる量に絞ってください。

Q 小規模でも会議は必要？

A はい。個人の思い込みを防ぐために必須です。

根拠法令

- 障害者総合支援法（就労継続支援B型運営基準）
- 個別支援計画作成・モニタリングに関する自治体通知

NotebookLM

アセスメントは「正解」ではなく「納得解」を育てる旅

1. 主訴と背景を分ける
2. 観察を計画につなげる
3. チームで回し続ける



アセスメントを、チーム最強の武器にしましょう。

NotebookLM